

令和元年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
吉備ボランティア養成研修

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

青少年の体験活動を支援するボランティアとして基礎的な知識や技術を習得し、法人ボランティアとしての資質や能力の向上を図る。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和元年5月18日（土）～19日（日）1泊2日

(2) 参加者

① 募集対象・人数

高校生、大学生（専門学校生を含む）及び社会人 30人

② 参加人数

53人（高校生17人、大学生35人、社会人1人）

(3) 講師等

1日目

講義1「ボランティア活動の意義」

講師：白鳥 雅人 氏（公益財団法人YMCAせとうち 副総主事）

説明1「青少年教育施設におけるボランティア活動」

報告：法人ボランティア3人（国立吉備青少年自然の家）

講義・演習1「ボランティア活動の技術」

講師：佐藤 泰之（国立吉備青少年自然の家 主任企画指導専門職）

2日目

講義・演習2「安全管理」

講師：井上 桂 氏（下関市立深坂自然の森 森の家下関 所長）

講義2「青少年教育における体験活動」

講師：太田 直宏 氏

（公益財団法人YMCAせとうち 代表理事・総主事）

講義3「青少年教育施設の現状と運営」

講師：高藤 佳明（国立吉備青少年自然の家 所長）

説明2「青少年教育施設におけるボランティア活動」

説明：西山 一之進（国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職）

(4) 企画・運営のポイント

- ① 広報する際、主に法人ボランティアが所属する大学（岡山大学、ノートルダム清心女子大学、岡山理科大学、中国学園大学）では、企画指導専門職による広報活動に加え、法人ボランティア数名に参加してもらい、職員とともに法人ボランティアの活動の様子を紹介した。また、就実大学や倉敷芸術科学大学、明誠学院高等学校、吉備高原学園高等学校でも広報活動を行った。

- ② 各講義では、様々な場面で青少年の体験活動を実践・支援されている講師の方々を招聘して、実践に基づいた講話を聴けるようにした。
- ③ ボランティア活動に必要な技術や知識を習得するために、講義だけでなく演習を取り入れ、体験を通して技能の習得を図った。
- ④ 今後のボランティア活動に参加しやすくするために、継続ボランティアと交流する場面を設定して、親睦を図った。

3. 活動の内容等

(1) 日程

5月18日(土)		5月19日(日)	
9:30	受付	6:00	起床・洗面
10:00	開講式	6:45	清掃
10:30	講義1「ボランティア活動の意義」	7:15	朝のつどい
12:00	昼食	7:30	朝食
13:00	説明1「青少年教育施設における ボランティア活動」	9:00	講義・演習2「安全管理」
14:00	アイスブレイク	12:00	昼食
15:00	講義・演習1 「ボランティア活動の技術」	13:00	講義2「青少年教育における 体験活動」
19:00	入浴	14:45	講義3「青少年教育施設の 現状と運営」
20:30	情報交換会	15:45	説明2「青少年教育施設における ボランティア活動」
22:00	就寝	16:45	閉講式

(2) 活動の状況



【講義1「ボランティア活動の意義」】



【説明1「青少年教育施設におけるボランティア活動」】



【アイスブレイク】



【アイスブレイク】



【講義・演習1「ボランティア活動の技術」】



【講義・演習1「ボランティア活動の技術」】



【講義・演習2「安全管理」】



【講義・演習2「安全管理」】



【講義2「青少年教育における体験活動」】



【講義3「青少年教育施設の現状と運営」】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

- ① 友達の輪も広がり、知識も増え、本当に来てよかったです。
- ② ボランティアの定義や心構えなど、ボランティアをするうえで、大切なことをしっかり理解することができました。
- ③ 1年間を通したボランティア活動がわかりやすかった。また、実際に参加された方のお話を聞いて、自分もやりたい気持ちが大きくなった。
- ④ アイスブレイクでは、何もない広場でも、自分の体一つでたくさんの遊びが生まらせることに驚きました。
- ⑤ 自尊感情をしっかり高めてあげられるように、子供と「やった！できた！」という体感を大切にしていきたいです。
- ⑥ 「自分が今できることは何だろう。」という思いを常に持って、他者の思いをしっかりと受け入れる大切さを実感した。
- ⑦ 野外炊事では、みんなで協力することの大切さが学べた。また、達成感も味わえた。

(3) 成果

- ① 本年度も法人ボランティアの積極的な広報活動の協力により、ボランティア養成研修に興味・関心を抱き、定員を大幅に超える参加者を得ることができた。
- ② 継続ボランティアからの発表や交流もあり、法人ボランティアに新規登録した参加者が、今後の事業等に参加しやすくなった。
- ③ 各講義では、参加者が真剣かつ楽しく、前向きに取り組める内容であったため、深い学びとなった。
- ④ 2つの高校に広報したことで、昨年を上回る17人の参加があり、そのうち14人の高校生が法人ボランティアに登録した。

(4) 今後の課題

- ① 実際に各大学に出向き広報を行ったが、ボランティア養成研修の期日が大学の授業と重なることもあり、事前に大学の授業日程を確認して、開催期日を設定する必要がある。
- ② 参加者53人のうち45人が法人ボランティアに登録した。より多くの参加者が登録するようにボランティアの魅力などをさらに発信していきたい。
- ③ 高校生の参加が増えたが、講義や演習では、高校生と大学生の交流が少なかった。そこで、高校生も遠慮なく打ち解けられるように、雰囲気づくりやプログラム運営に心掛けたい。

担当：企画指導専門職 西山 一之進